めだかの学校だより

平成20年5月1日
第60号
学舎：東久留女木新田観音山
「みどりの郷キャンプ場」内
事務局：静岡県磐田市
家田529-20
TEL：0539-62-6691

学長訓話

めだかの学校大学院

学長　村松達雄

「同じ方向を仲間たち」

今から20年も前、私は一冊の雑誌と出会った。皆さんご存じの「かがり火」である。当時は、「リゾート通信」という名前で観光という視点から書かれていた。私は、当時アクティ森に勤務し、この施設ができたばかりで、何とかこの施設や町をPRできないかと悪戦苦闘しており、たまたま手にしたこの雑誌からどこかそのヒントになるものがないか探してみたかった。

「小さな雑誌だが全国紙です。支局長になって記事を書いていただければ無料で掲載しますよ。」ということで、大好きなこの町をぜひ紹介したいと何回か掲載していただいた。

そうこうしているうちに突然この雑誌が「かがり火」と名前を変えて、人にスポットを当てたものになった。東京市ヶ谷麹町にあった浪漫亭も「新浪漫亭」として、再スタートすることになった。かがり火支局長会議と題して、この「新浪漫亭」で全国の仲間が集まる機会があった。私も片隅で参加、全国ずいぶん変わった人がいるものだと思った会合だった。このとき、「かがり火」の菅原社長から言われた言葉を思い出す。「村松さん。全国ではあなたと同じ方向を向いている人が必ずいるから、そんな人と必ず巡り会えるからがんばってください。」全国では、地域づくり、町づくりに携わっている人はたくさんおり、成功例は数多くあるが、自分とは違った大きなもの、到底まねできるものではないし、自分のものになるものではない。地域づくり、町づくりも自分の言葉で作って行かなくては実現できるものでない。地域づくりや町づくりなどよその町でやるものと思っていたものが、このときから自分と同じ方向を向いて同じようにがんばる仲間は必ずいると心に誓ってがんばることとした。その後、町役場の職員でありながら大阪へ行くことになり、ここで力になってくれたのが、新浪漫亭での支局長会議で知り合った仲間だった。大阪で多くの人と出会うことを助けていただいた。その後、かがり火のネットワークでオホーツク寒気団の仲間と出会い、また、足助町の仲間とも親しいつきあいをさせていただき、活動をヒントに「森ほたる」というイベントを行うことができた。昨年には、高知県馬路村に出向き、いろいろな仲間とも交流させていただいた。こうした出会いで気づくのは、出会った方は有名な人もいるが、みんな地域に根付いた同じ方向を向いている仲間だった。

めだかの学校が15周年を迎え、その記念として大学院として開催されることになりました。めだかも同じ方向を向いている仲間がたくさんいます。目指しているもの、境遇や考え方などが違っていても向いている方向はきっと同じであると思います。

今回は、ぜひ全国から集まる方やOBの方などたくさんの方に参加していただき、同じ方向を向く方を見付けていっていただきたいと思います。

めだかの学校伝言板

――『めだかの学校 大学院』を開校するので出席しなさい。
学　長／村松達雄
副学長／水村春江
事務長／石野省三
職　員／(企画)鈴木正士、鈴木武史、溝口久、榊原幸雄、松本芳廣　(会計・受付・接待など)榊原淑友、中嶋豊、中村明男、萩田博、渡辺三ツ子、今村純子、尾上美智子、牧野久子　(給食配膳など)斉藤昭、本島慎一郎、古田賢二郎、鈴木裕之　(案内・看板・飾りつけなど)服部守孝、伊藤英雄、加藤直樹、山崎敏明　(広報・記録・名簿など)加藤修一、上嶋裕志、水島加寿代、間渕亮太
◎役割はいっぱい。あなたも主役、どんどん指名されます！

開校日／平成20年6月6日(金)14：00～7日(土)正午――
学舎／臨済宗方広寺派大本山 方広寺
＜時間割＞～「界を越えて・・・あなたが主役」～
●開校セレモニー(14：00～)
●めだか特別講義(15：30～)講師「哲学者 内山節氏」
●夕食交流会(17：30～)
●全体会「界を越えて－あなたが主役」(19：00～)
●あなたが主役の大交流会(20：00～)

○座禅(7日 6：00～)
○自由時間・映画「天まであがれ」上映(8：00～)
○めだか講演(9：30～)
講師「浜名湖えんため会長　稲葉大輔氏」
○全体会「私も言わせて！－2分間スピーチ」(10：30～)

めだかの動き
泳ぎ回るめだかたち

■めだかは南の海へ

これは、「空飛ぶめん棒」だ。といっても、バトンガールのようにめん棒をくるくる廻したり、空中高く投げたりしながら、そばを打ったわけではない。また、やり投げのようにめん棒を投げて、遊んだわけでもない。蕎麦打ちめだかの久しぶりの県外遠征は、飛行機に乗っての奄美大島遠征である。怪しい人物と間違われてはいけないので、「めん棒」とそば切り包丁を手荷物に預けて、大阪伊丹空港から飛び立ったのである。

なぜ、奄美大島でそば打ちなのかと聞かれても、答えようはないが、例によって溝口Qさんからのお誘いである。奄美大島で、まちづくりに奮闘している方々から講演と交流のオファーがあるから、「どうせ行くならそば打ち道具を担いで行こう」という話が、かなり前からあって、ついこの三月に実現したのである。

蕎麦を伸す板は、新しいシナ合板を現地で買ってもらい、こねる鉢は大きな鍋やボウルを用意してもらった。こま板と包丁は、代替品が現地調達できそうもないので、三組を持参した、めん棒は、手すり用の丸棒や細い塩ビ管を用意するようお願いしたが、心配であったので、剣道の竹刀袋のような布袋に入れて持参した。そば粉は宅配便で送って、つけ汁は家内に作ってもらった自家製を二リットル持参した。道具や材料は、順調にそろったものの、驚いたのは、体験会場であった。なにしろ、日本蕎麦を食べる習慣はほとんどない地域であることに加えて、蕎麦を打っているところを一度も見たことのない方々に、現地の準備をしてもらったので、予想もしなかった会場がキープされていた。

おそらく奄美大島で初の蕎麦打ち体験会となった、その会場は大きな文化会館「奄美文化センター」の野外ステージだった。半円形の階段状の客席から見下ろす屋根の全くないステージが用意されていた。さすがに開放的な南の民の発想であると思った。

屋根のない場所での蕎麦打ちは、初めてであったので、雨は当然ながら、風が強かったりかんかん照りにならないよう祈っていたが、当日は、野外蕎麦打ちには絶好の薄ぐもりになった。現役を引退して間もない男性や中年の女性に加えて、中高年の夫婦と若い方々ら四〇人ほど集まった。皆さん大変熱心で、手ほどきをしたQさんと私に、アシスタントで同行したS君も、質問責めに会い大忙しであった。お茶の静岡のPRになればと思い、抹茶を現地調達して簡易な茶蕎麦も体験してもらった。蕎麦が打ち上がった組から順次茹で上げて、打ち立ての手打ち蕎麦を味わってもらった。現地調達、持参をあわせて、何とか道具と材料を用意しての体験会であったが、はじめての蕎麦打ちと日本蕎麦の味を楽しんで頂くことができた。蕎麦打ち体験が終わった後のQさんの講演も、ワークショップ形式で軽妙に進められ、大好評であった。

イベントの前夜の交流会では、建築事務所の社長さんのお宅で、秘蔵の黒糖焼酎とともに油ゾーメンやヤギ汁などの奄美の名物料理をたっぷりとご馳走になった。二日目の交流会は、講演に参加されたまちづくりに熱心な方々との宴会となった。いつかの再会を約束した後の二次会は、島歌の名手のいる店に行き、生の三線（サンシン）と本物の島歌を聴きながら、黒糖焼酎で時を忘れた。これから静岡空港が開港すれば、全国各地の人と銘酒を訪ねる蕎麦打ち遠征の機会が、ますます増えそうである。御希望の方は、蕎麦打ち道具を担いだめだかの遠征に、是非御同行をお願いします。

（なんでもあり農園小作人の松）

■第26回地域づくり団体全国研修交流会愛媛大会のお知らせ

大会テーマ
「きなはいや伊予の国～広げよう地域づくりの輪～」

日時　11月13日（木）愛媛県宇和島前夜祭
11月14日（金）全大会と分科会
11月15日（土）分科会

しまなみ海道と霊峰石鎚、文学といで湯の町松山、瀬戸内海に沈む夕日と島影、耕して天に至るそして真珠とリアス式海岸など愛媛の魅力ある自然と四国遍路で育まれたお接待の心が皆様のお越しをお待ちしております。地域づくりを語りにおいでよ。愛媛へ。

※分科会は県内15地域で行われます。

参加費　前夜祭（4000円）
14・15日（7000円）
14日昼食（1000円）
宿泊費は別途
（参加費等は予定です）

分科会への移動は全体会場からバスで移動、15日は現地で解散

主催　地域づくり団体全国協議会
（事務局：財団法人地域活性化センター）
地域づくり団体全国研修交流会
愛媛大会実行委員会
（事務局：財団法人えひめ地域政策研究センター）

■三遠南信2008は浜松で

昨年11月飯田市で開催された「三遠南信サミット2007 in 南信州」、交流から連携へ、地域が自ら描く協創のビジョン「250万流域都市圏の創造 一世界につながる日本の中央回廊」。今年度はリーダー役の浜松市が担当。期日は2009年2月10日（火）、各回の住民セッションには多くの「めだか生」が『界を越えて』関わっている。サミットの合間には、「三遠南信アミ」（水島加寿代メダカ）が、多くのイベントを企画し、大活躍。他のメダカもとび出して・・・まずは、六月六日七日の『めだかの学校大学院』。全国の「界を越えた面白人」が集まってくる。

■全国まちづくり交流会 in 足助

北は北海道から、南は九州まで、全国のまちからたくさんの仲間が集まります。

この交流会は、5年前足助町で開催されたのをきっかけに、南は九州南国の島ヨロン町、北は知床・佐呂間町、西は四国高知馬路村と文字通り全国津々浦々巡ってきました。今年は、20年11月1日（土）で愛知県豊田市足助町で開催されます。紅葉シーズンがはじまる香嵐渓をバックに百年草や交流館を会場に行われます。31日は前夜祭、2日は希望者が周辺観光の予定で、足助の仲間が今準備を始めています。春は静岡（引佐）、秋は愛知（足助）とお互い助け合い、みんなで参加しましょう！楽しい出会いが待っています。

（森の元気屋）

■都田川水源まつり＆菜の花プロジェクト

「めだかの学校」課外授業の「都田川水源まつり＆菜の花プロジェクト」、水源まつ

りは8月24日(日)予定。今回も①都田川源流探検隊②久留女木の棚田探検隊③都田ダム湖探検隊。いかだ作って湖面へ、釣りも楽しみ、水質検査もして・・・。今年は菜の花もいっぱい咲き、種子もたくさんとれます、楽しみに・・・。

『人・ひと・ヒト…だより』

●浜松市（引佐町）の石野省三メダカ。3月末日をもって三ケ日東小の校長を退職。4月より非常勤で静岡市の出版社へ。都田川水源まつり&菜の花プロジェクトの実行委員長は今年も。

●磐田市の川島安一メダカ。3月31日をもって静岡県産業部次長を退職。まずは足元の「農の風景」かなァ。ブログを見て、何か分かるかも。

●袋井市の松本芳廣メダカ。春の異動で中遠農林事務所長から中部地域防災局長に。農業から防災へ。職場は変わっても『そば職人』は変わりません、だって。

●浜松市の溝口久メダカ。やはり春の異動で国民文化祭準備室から産業部観光局観光振興室へ。まさにぴったりの職場。静岡県を世界へ。

●ダジャレの天才（？）掛川市の水野忠義メダカ。この頃体調優れず、何とか6月の大学院には登校できるように努めます。と。無理せず体調整えて。

●浜松市（引佐町）の牧野久子メダカ。「いなさ湖の菜の花満開でキレイだった。コンサートもできるくらいだった」。いつもありがとう。来年はコンサートだね。（＊4月15日に見たら種子がいっぱいできていました。コスモスの芽も。バラメダカ）。

●島田市の土屋誠一メダカ。4月1日～8日までイタリヤのフイレンツェ・ボンザサント・ステフォノ美術館で開催された『地蔵賛歌展』に、お地蔵さん三体をもって参加。「良かったァ。また行きたい」だって。

●浜松市（引佐町）の鈴木計芳メダカ。「伊藤茂男メダカ亡きあとの、NPO渋川大好きや、てんてんゴーしぶ川をどうするか、悩み多し」と。みんなで知恵を出しあって『福祉タクシー』の前進を。がんばって！。

●島田市の池谷俊裕メダカ。「島田にめだかの学校幼稚園をつくりたいけど…」と電話あり。4月1日の夜、黄瀬川はつ枝・池田タキ江・岩本伴江・増田みさ子メダカらが集まって語り合う。めだかの学校は大学院・幼稚園？も併設。誰です「老人ホームもある」なんて言うのは。

●掛川市横須賀の鈴木武史メダカ。4月5～6日の三熊野神社の大祭で、家業ほっぽらかしてワッショイワッショイ。佳子さんもご母堂も「もう諦めています」と。鳥山剛メダカからは「バラさん遊びにおいでヨ」のお誘い。あいにく仕事で残念。

●森町の『町並みと蔵展』。これまた4月5日と6日。榊原淑友メダカ・亀澤進メダカ・松下信久メダカらが大活躍。亀澤メダカ、車夫になって和服美人を乗せて新聞に。「ヨッ、カメちゃん」。もりぶ工房の服部守孝メダカ「前回よりお客さんが少なかった。オープンカフェ、リンデンバウムがなかったからかなァ」だって。（注服部メダカ、自宅の庭に一人で立派な小屋をつくってしまった。棟梁と呼ぼう）。

●浜松市細江町の上嶋裕志メダカ。『姫様道中』と併催した「姫街道アート展」には、陶芸の鈴木青宵、皮工芸の佐宗光子、陶芸の八木若代・名和紅、童画の名和理代子の元メダカたちが出展。『めだかの文化祭』には桐工芸の横山浩史、心象画の耳塚信弘、蚊帳アートの濱田綾子、刺繍画の斉藤敏子。書展に大橋町代現役めだからがアート展を盛り上げた。ご苦労様でした。

●磐田市の鈴木正士メダカ。4月26日に正士大平荘でお茶摘み&交流会。今年もわらびを摘んだり、タケノコ掘ったり、バーベキューや手打ちそばと。あッごめん、便りが届く頃には終わってました。

●豊田市の堀田望・正子元メダカ。「15周年のご案内ありがとう。懐かしい方々のお名前を拝見、あいかわらずの元気に感心しています。「小麦塾」もこの4月で40回目を開講します。楽しくやっています。「大学院」出席できませんが、盛会祈ってます」と。

●甲府市の山梨県立大教授、市原実さんから『ひとり新聞』が送られてきました。なんと『農の風景』◎農業の時代　山草人。90号記念の会に出席。松本さん（松本芳広メダカ）の手打ちそばをお腹いっぱいいただいた。石川美知子さん（元メダカ）と再会ーだって。人のご縁の輪にびっくり。（山草人は川島安一メダカのペンネーム）。

紙面の都合で今回もこれまで。

お手紙ください。待ってま～す。

■ ■ ■

■めだか春秋

「ボクは春が好きだなぁ。」

その言葉の主、伊藤茂男さんが夜桜に誘われるように急逝されてしまった。

その一報は三月十一日早朝篠原準八先生（山野草研究家、日本つみくさの会会長、元メダカ生）からでした。

「明日東京で会う約束してたんだよ」先生の声も虚ろでした。

翌日の通夜の客は玄関の外まで溢れ唐突な別れに戸惑っている様でした。

祭壇の写真はいつものにこやかな笑顔の伊藤さんでした。

「あの写真が一番良かったものだから。隣にいたのは水村さんよ。」

お話を伺いながら初めてお会いした日を思い出していました。

二十七年前の春のお彼岸。私は二人の子供と松菱の屋上に上りました。そこは花木や鉢物が並ぶ引佐町の観光物産展の会場でした。方広寺の末寺の娘の私はそれだけで心が和みました。引佐町役場観光課長であった伊藤さんとのその時の出会いで沢山のご縁を頂き家族ぐるみのお付き合いも始まりました。

「地域おこし」への想いと行動力は求道者のようでした。

「足元の雑草は宝の草だよ」と地元の山野草を供する、休養村センターで始まった、レストランつみくさは評判を呼びました。そこを学び舎としてメダカの学校が誕生。伊藤さんも言い出しっぺの一人でした。日本つみくさの会は篠原先生を中心に、各地でサミットを開催し私も引佐町、長野県売木村、東京杉並と司会を務めました。昨年一〇月新潟県胎内市でのサミットが伊藤さんとの最後の旅になってしまいました。そこでも全国の草仲間から慕われる姿に感動を新たにしたものです。

ありがとうございました。

散る桜　残る桜も　散る桜

（水村春江メダカ）

[追伸]故伊藤茂男さんには、多くのめだか生が、それぞれの追悼の思いでいることと思います。松本芳廣メダカからも頂きました。松本メダカの記事は「15年誌」に、他の亡くなられた方と共に掲載させて頂くことにしました。（バラメダカ）

トピックス

☆NPO法人「富士の国・学校ビオトープ」事務局長の静岡市の鈴木芳徳メダカ。日頃から市街地の公園や校庭などで自然観察した五年間の活動の蓄積▽土の中の生き物探し▽セミの抜け殻調べ▽葉っぱの色調べ▽地衣類探し探検▽落ち葉アートの五項目をまとめた、A4版、オールカラー20頁の『街なか自然体験のヒント』の冊子を作成、無料配布。鈴木芳徳メダカ「身近な場所にも豊かな生態系がある。小さな発見を通して地域への愛着を探してもらえたら・・・」と、写真つきで静岡新聞に紹介されていました。頑張るメダカいいねえ。そう、私たちの足元には宝物がいっぱい。

☆磐田市の榊原幸雄メダカ。磐田市敷地に建設された磐田市立豊岡東公民館の初代館長に。4月1日から自転車通勤。静岡新聞の『この人』に載ったこともあって、声をかけていただくことしきり。公民館には体育館、子どもプレイルーム、研修室、講義室、視聴覚室、調理室、体育館にはシャワールームも。いや～本格派。管理者は事務員さんと2人。『館長さんって公民館の子守り役ですね』と言われて、まさにそう。まずは建物に馴れることからとトイレ掃除から。いろいろな企画の立案と実施も。「半年は寝てます」とうそぶいている。でも後ろには「めだかの学校」という強力な応援団がいるので心配ないか。場所は、天浜線敷地駅近く、緑の屋根の建物。磐田市敷地1187-3、電話0539-62-6669(FAX同じ)休館は月曜日と祭日。

■事務局だより

賑やかだった桜の花は今は葉桜に。いよいよ若葉の季節。足元をみればたんぽぽ、カラスのエンドウ、カキドウシ、レンゲなどなど、まさに野の草花の銀座です。

扨て第59回の「めだかの学校」は、3月7日、校長榊原淑友、教頭内山ゆき乃、用務員鈴木祐之。校長と用務員、みんなより早く出校して、素手でトイレ掃除。私は風邪で全てがボワーン。10kgのプロパンボンベも持てず、頼んであったプロパン店から服部守孝メダカに運んでもらう。授業は一時間目国語「遠州弁でメールが見えるかや」加藤直樹先生。「メールやっていますか」「やってませんか」のアンケートを取りながら、データからメールの「いいところ」「悪いところ」を解説。二時間目は美術「アット@蚊帳アート読めるかや」濱田綾子先生。京都で着物の染め絵を描いていた。地元に帰って結婚。子育てから手が離れたのを機会に、同級生が蚊帳を織っていたこともあって、その蚊帳布に絵を画きはじめたのがキッカケとなって蚊帳絵に熱中。作品数点を展示。ご主人の手もかりて解説。消灯すればまさに幻想的な世界。三時間目は社会「いいだに　これからどう鮎むかやァ」大貫正信先生。普段口数の少ない先生が、鮎の話になると目が輝いて冗説に。厳しい時代の流れに、昨年鮎の養殖をやめた、と。養殖魚は、餌によって臭いや味が変わることを知った。

お待ち兼ねの給食の時間。3月はひなご膳。うーん、風邪と薬のせいだったか記憶がぷつり。お赦しを。私語飲食全て禁止の次回3役発表。次回6月は15周年&開校60回の特別記念にあたり、従来の3役は決めず、大学院の学長のみ決める。学長は村松達雄。進行役のバラメダカ。現役の3役が前に出ているのにスッカリ忘れて「アッ、ごめん」。引き継ぎに村松新学長だけでは淋しいと、目が合った岩本伴江メダカに教頭の役割を。用務員は…。なんとか引継ぎをする。本来60回は女性が校長だが、大学院で学長が男性のため、16期の61回は、16年ぶりに校長、教頭の男女の順番を変える。61回以降は女男女男の順になる。

それにしても、榊原幸雄メダカ、風邪と薬でプツンプツン。榊原校長、鈴木用務員、石野省三メダカ、服部メダカらが閉じまりなどいろいろやってくれた。感謝。

第60回、15周年記念の実行委員会&職員会議を4月10日（木）午後七時より、豊岡荘で行なう。特別講義の哲学者の内山節さんも承諾して下さり、開催要項もほぼ固まったので、最後の詰めに入る。日程は6月6日午後一時～七日正午まで、会場は方広寺。開催テーマは『界を越えて…あなたが主役』。めだかの学校の基本理念である「誰が生徒か先生か」は、しっかり守り、参加者の中から発言者を決める。また全員参加型で、一言でも発言できるように構成。共に学び合えることの喜びを享受する『出会いと交流』。また資料の中に「めだかの学校15年誌」を添える。『全員の一言を掲載したい』と、「私とめだかの学校」の原稿を提出していない生徒にハガキにて連絡する。16期から新規入学希望者には入学金千五百円で買ってもらうことも決める。「めだかの学校って何?」と聞かれても、この一冊で分かることに。いつもの如く会話はあっちへこっちへ。「とにかく役割を決めよう」と、企画は村松達雄(長)、鈴木正士、鈴木武史、溝口久、榊原幸雄。受付・会計・接待など、石野省三(長)、榊原淑友、中嶋豊、中村明男、萩田博、渡辺三ツ子、今村純子、牧野久子。チラシ上嶋裕志。名簿、水島加寿代。看板設営など、伊藤英雄、服部守孝。給食、斉藤昭、本島慎一郎。記録、加藤修一、水島加寿代。これからやることがいっぱい出て来る。順次役割分担をしていく。合い言葉は『私が主役』です。

■今回もお礼を!

なんとか今回は5月1日発行前に一とがんばっているが…。『大学院のお知らせを早くしないと申し込みが…』、気は焦るばかり。松本芳廣、鈴木武史、上嶋裕志、伊藤英雄、本島慎一郎、水村春江、村松達雄、服部守孝、間渕亮太のメダカさん、ありがとう!。

■第16期の継続と申し込みについて

第16期は、平成20年9月1日から21年8月31日までです。6月6日の大学院の日から受付をはじめます。8月31日までに申込書に千円を添えて手続きして下さい。継続手続きをしない生徒は自動退学となりますので、ご注意して下さい。入校希望者がありましたら、事務局までご連絡下さい。申込書と資料送ります。

■めだかの学校だよりの原稿を!

次回の発行日は8月1日です。原稿の締切りは7月15日(火)です。事務局まで郵便かFAXで。メールの方は、

《mabuchi-trd@yr.tnc.ne.jp》

間渕亮太090-5009-0986です。(メールの方は割付の関係もあるのでご一報を)。

■めだかの学校の事務局

〒438-0105静岡県磐田市家田529番地20　榊原幸雄方　TEL053-962-6691（FAX同じ）

※学舎「みどりの郷」には電話はありません。連絡・お問合せは事務局へ。